

お盆が過ぎ、ようやく暑さも峠を越えるかと思いきや、残暑は10月ごろまで長引くとの予報です。

現在会員登録数 4,130 人さま。次号は9月20日発行の予定です／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

《5》宮川健郎 私の出会った児童文学者たち ※休載

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■ ----- ■
【1】お知らせ

● 「おはなしモノレール」参加者募集

貸切の大阪モノレール車内で「おはなし会」を楽しみ、彩都の会場で「パネルシアター」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学3年生までのお子様と保護者、あわせて240人を募集します。

9月18日（月・祝）開催、参加費はひとり500円（大人・子ども同額）です。

参加申し込み締切は8月31日（木）。※ 申し込み多数の場合は抽選

◇ 詳細・申し込み↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html#ohanashimonorail

● 「第40回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（火）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#40boshu

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

*年間1万円以上ご寄付いただいた方には、イイクロちゃんグッズをプレゼントしています。

※詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html

※Syncable（シンカブル）＝継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。

→ <https://syncable.biz/associate/19800701/>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/@iiclol196>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/ml_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コラム
■ ----- ■

《 1 》この本読んだ？ Yasuko's & Masayo's Talk

『いつものところで ワタシゴト 14歳のひろしま・3』 中澤晶子/作
ささめやゆき/絵 汐文社 2023年7月 対象年齢：中学生以上

* 今回のゲストは愛知淑徳大学の酒井晶代さん（M）です。

あらすじ：広島へ修学旅行に行く事前学習として、山川さんというおばあさんから原爆で妹を亡くした体験を聞いた笹の森中学の3年生を描いた連作集。「描く」では、祖母と母を画家に持つ明（めい）が、山川さんの肖像画を描くことになる。「縫う」では、手芸クラブのみかるが、山川さんの妹の制服を文化祭のクラブの共同制作として復元することになる。「うたう」は、カウンターテナーのつばさが、修学旅行先で合唱の指揮をし、そのあと、合唱部の仲間とともに、山川さんに歌を歌う。「演じる」では、演劇部の蘭が、文化祭でグローバル・ヒバクシャの朗読劇を制作する。

Y：三部作「ワタシゴト 14歳のひろしま」が完結しました。

M：一冊ずつ趣向が違ってそれぞれに読み応えのある三部作だと思いました。

Y：第一作は、さまざまな生きにくさを抱えている中学生たちが、広島の平和記念公園へ行き、資料館に展示されているモノを見たり、公園で人に会ったりして、戦争や原爆を「ワタシゴト」として考える様子が描かれ、第二作『あなたがいたところ』は、平和記念資料館以外の戦争とかかわりのある場所も訪れて、より広い視野で戦争や広島について考えられるようになっていきます。

M：本作は、『いつものところで』という表題のとおり、主人公たちは修学旅行へ行きますが、その詳しい内容は書かれておらず、読者に想像させ、いつもいる場所で、修学旅行の前後に、戦争や被ばくについて考えるというしかけになっています。三作目にふさわしく、平和について考えるのは特別な場所と時間だけではなく、日常の中で考え続けることが大切だというメッセージが伝わります。

Y：原爆を体験し、学徒動員で作業を行っていて行方不明のままの妹さんのことを語る山川さんも、主人公たちと同じ地域＝「いつものところ」に住んでいる人です。

M：章立ては、「描く」「縫う」「うたう」「演じる」となっていて、芸術や手仕事を通して考えるということが主題になっています。

Y：それぞれの章の冒頭でほかとは違う字体で山川さんの声がかかれていて、自分のことや、妹のこと、友だちについて、そして、今を生きる生徒たちへのメッセージのように感じられます。

M：各章にはそれぞれ主人公がいますが、すべての章に登場するのが、ムラヤマタカシ。タカシは、修学旅行から帰ったあと、山川さんに連絡をとり、各章の主人公たちを山川さんの家に誘います。カタカナ表記されているのは、タカシに舞台回しの役割があることを示しているのかなと思いました。そういう意味では、「ひろしま」がひらがな表記である理由も探ってみたくな

りました。

Y：各章の結末近くには、広島平和記念日である、8月6日が明日や、明後日や、今日などと書かれていて、この日を忘れないという思いが作品から伝わります。作品最後の文が、「はい、わたし、セットします」となっていて、主人公の蘭が8月6日の朝、起きられるように目覚ましをセットするところで終わっています。忘れないためには、強い意志と行動が必要だということにも読めると思いました。

M：最後が「ひろしま」だけで終わらず、世界の被ばく者に思いをはせるところで終わっていることで、三部作が世界へと広がり、未来へと向かう作品になったと思いました。

各章においしいような食べ物が出てきたり、「縫う」に登場する呉服店のおばあさんのような、味のある脇役が出てきたりする点も、他の作品同様、中澤作品の魅力だと思いました。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第96回「チュウリップの幻術」

真昼の饗宴

5月の農園にやってきたのは、洋傘直しです。「何かご用はありませんか。若し又何か鋏でも研ぐのがありましたらそちらの方もいたします。」農園の主人からあずかったものにくわえて、園丁が自分の西洋剃刀を研ぐのを頼んだのに、その代金を受け取ってもらえなくて、園丁は、「そんならまあ私の作った花でも見て行って下さい。」と、うっこんこうの畑へ案内します。うっこんこうは鬱金香、チュウリップの漢名だといいます。畑のなかで、園丁と洋傘直しの会話が重ねられます。

「そして、そら、光が湧いているでしょう。おお、湧きあがる、湧きあがる、花の盃をあふれてひろがり湧きあがりひろがりひろがりもう青ぞらも光の波で一ぱいです。山脈の雪も光の中で機嫌よく空へ笑っています。湧きます、湧きます。ふう、チュウリップの光の酒。どうです。チュウリップの光の酒。ほめて下さい。」

「ええ、このエステルは上等です。とても合成できません。」

たしかに、チュウリップの花は、ワイングラスのようです。賢治の歌稿 B492 「チュウリップ／かゞやく酒は湧きたてど／そのみどりなる柄はふるはざり」と、その下書稿「かげら(ママ)ふは／うっこんこうに湧きたてど／そのみどりなる柄はふるはざり。」を踏まえて、チュウリップから湧き出る酒とは、かげろうをイメージしたものだろうと述べたのは原子朗です(『定本宮沢賢治語彙事典』2013年)。洋傘直しは、それを香り立つ「エステル」と呼びます。

「いいえ、私はエステル工学校の卒業生です。」「エステル工学校。ハッハッハ。素敵だ。さあどうです。一杯やりましょう。チュウリップの光の酒。さあ飲みませんか。」「いや、やりましょう。よう、あなたの健康を祝します。」一ふたりのことばのやりとりは、どんどん加速していきます。まるで、真昼の饗宴です。かつて、私は、「よだかの星」や、それとはちがうタイプの「かしわばやし」の夜」などの賢治童話に、ことばによって「過剰さ」が積み上げられていったあげくに「浄化」がおとずれるという力学を見出したことがあります(宮川健郎「声と力」2004年)。この「チュウリップの幻術」にも、同じものを感じます。

洋傘直しは「ああ、もうよほど経ったでしょう。チュウリップの幻術にかかっているうちに。」とよろよろ立ち去っていきますが、チュウリップの幻術を現出させたのも賢治のことばですから、これは、やはり、ことばの幻術ともいえます。(馬車別当)

(本文の引用は、筑摩書房版『宮沢賢治コレクション4 雁の童子』によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 50

○どの部屋かに、耳のとおいおばさんがいる。ぼくはおもいだした。やけあとを、あるいていた、目の大きなぼうや。あのときは、ぶあいそで、ごめんな。ぼうやのとけいが、とまったらしい。
○きぬえのとけい、とまるな。とまるな、とまるな。

(『八月がくるたびに』 おおえひで/作 篠原勝之/え 理論社 1971年1月 p.110)

子どものとき、母に読んでもらった記憶があります。表紙の絵と、広島ではなく、長崎の原ばくのことだということが心に残っています。

作品は、25歳のきぬえが、早朝「へいわ公園」へ行き、山下のおばさんに出会うエピソードには生まれ、きぬえの20年前の被ばく体験が語られます。きぬえは原ばくが投下されたとき、人形と遊んでいて、ふとんを干したあとの空の長持に入ったまま爆風に吹き飛ばされ、やけどを負います。おかあさんは、家の下敷きになって火事にあい、兄のきよしは、おじいさんとイモ畑で被ばくし、おじいさんは一年後に亡くなります。そして、体がだるいと言っていたきよしもついに入院し、死んでしまいます。引用はきよしが残したノートに書かれていたことばです。

「耳のとおいおばさん」のことは、きよし「しらない子が、しらないおばさんと、おや子のように手をつないで、しってる人をさがしてるらしい……。」状況の人に会ったときに、「さがしたってだめさ。しってるだいじな人は、もう、うらかみには、おらん」(p.74)と言ったことを指しています。2つ目の引用は、死にゆく運命のきよし、妹が生き延びることを願ったことばです。

きぬえの家族を中心にした原ばく以降の出来事が丁寧かつ、淡々と描かれていて、今読んでも当時の状況が目には浮かびます。極限状態でも家族や地域の人助け合うさま、きぬえがたくましく生きるさまが心に残ります。そして篠原勝之の斬新かつ芸術的な絵は、編集者である小宮山量平が「原ばく問題」そのもののこわさを、きびしく表現する「(解説に代えて」p.123)と書いているとおりでと思いました。(Y)

《4》行って来ました！

京都文化博物館で9月10日まで開催されている特別展「発掘された珠玉の名

品 少女たち－夢と希望・そのはざままで 星野画廊コレクションより」に行ってきました。京都にある星野画廊のコレクションから約 120 点展示されています。星野画廊は明治、大正、昭和の時代のうねりの中で、いつしか忘れられた実力ある画家たちの作品を発掘し、紹介されてきたそうです。

展示は、「明治の少女たち」「四季のうつろいの中で」「大正の個性派画家たち」「歴史画に見る少女たち」「夢見る少女たち」「慈しむ母として」「モダンガールズ」「日仏画家の競艶」の 8 章に分けられています。「少女たち」をテーマに、幼児から大人までの女性の、いろいろな場面や、いろいろな表情の、日本画や洋画が楽しめます。落款があっても作者について不詳な作品に、味わい深いものがたくさんありました。

私は第 2 章に展示されている美しい日本画が特に心に残りました。「夏苑の少女」（柳江という落款・作者不詳、1912-1926 年、絹本彩色）は、赤いリボンの浴衣姿の少女が、麦わら帽子のかごに、朝顔や白芙蓉の花を入れている場面が描かれ、涼しさを感じます。日本画でありながら、リボンや帽子という西洋のアイテムが入り込み、花をしっかりと見つめる少女の姿に現代的な少女とのつながりを感じます。

「白川女」（小川千甕、1907-1912 年、絹本彩色）は、頭に草花をのせたふたりの白川女が話しながら歩いている前をツバメが飛んでいる絵で楽しそうです。図録の解説には「この作品は、千甕がまだ京都にいた明治後期の作品で、洋画家の浅井忠に学びながらも新しい日本画を模索していた時期の作品と考えられます。」とあり、白川女の体の自由な動きや、彼女の日常生活が感じられるような表情、頭の上の草花の色鮮やかさなどが、いわゆる私のイメージしている「美人画」とは違うように感じました。

「窓辺御簾美人」（数馬という落款・作者不詳、1926-1935 年、絹本彩色）は、描き表装（額縁のように絵を取り囲む、本来布地であつらえる部分まで絵で描くこと）という手法で描かれています。御簾を巻き上げている、大きな鬘を結った、白地に青い花柄の着物の笑顔の女の人が、杵を飛び出して描かれている手法がユニークで、立体的に見えます。マンガのコマを飛び出して描かれている絵を思い出しました。

少女の描かれ方から、少女観、絵画観、日本画や洋画の手法の変化が見られたことが興味深く、京都を歩きながら、絵で見たような少女たちとすれ違ったような気がしました。（K）

京都文化博物館 <https://www.bunpaku.or.jp/>

《5》 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち

連載「私の出会った児童文学者たち」（宮川健郎）は、著者のつごうにより休載させていただきます。

< 第 1 回～第 3 回はこちらからごらんください >

http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/watashinodeatta.html



■ ----- ■
● 第11回 あまんきみこ研究会

シンポジウム「更新された『車のいろは空のいろ』全4冊をめぐってーあまんきみこの研究と実践は今ー」 他

日時：9月23日（土・祝） 13：15～17：00

会場：玉川大学 大研棟 B104 会議室（対面を基本とし、ハイフレックス）

主催：あまんきみこ研究会 ※要申し込み、非会員も可

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

■ ----- ■
今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『いつものところで』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント応募フォームから、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ 応募ください。

応募フォーム⇒ <https://forms.gle/wTrFHBedaw4s3Bus9>

締切は9月11日（月）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

—」—」—」—」—」—」—」—」—」—」
4年ぶりの完全開催の地元の夏祭りのにぎわいは相当なもの。修繕されていたり飾り付けが新調されたりと、そろいの装束の青年団が張り切っています。昔は、めいめいの服装で1トン以上はあろうかという布団太鼓を必死で担いだものです。今は、ほとんどのルートをコマ付きの台車に乗せて引いて回っています。氏神さまはニヤリと笑っているかもしれません。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

